

令和3年度

学校評価（総括評価表）結果

本校の教育方針

人・社会・環境を考え、主体性を持ち積極的に行動できる人づくり

- ① 可能性への挑戦「こころいき」
- ② 困難に立ち向かい、打ち克つ「たくましさ」
- ③ 人・自然・地域を大切にする「おもいやり」

徳島県立城西高等学校

自 己 評 価			学校関係者評価			
重点課題1	重点目標	評価指標と活動計画	学校関係者の意見			
「城西スタンダードの確立」	<p>(全体レベル)</p> <p>校訓「耕心」のもと、心豊かに生きる力を育む教育を通して、より良く生きる力を育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①基本的な生活態度を育成する。【生徒指導課】</p> <p>②規範意識の向上を図る。【生徒指導課】</p> <p>③行動を通して豊かな心を育み、人権尊重の意欲と実践力を高める。【人権・相談課】</p>	<p>評価指標</p> <p>生きる力が身についたと答える生徒【70%以上】</p> <p>①-1 規則正しい生活ができている、またはできるようになったと答える生徒【90%以上】</p> <p>①-2 新しい生活様式・感染防止に対する取り組みができるようになったと答える生徒【90%以上】</p> <p>②-1 社会生活におけるルールを守っている、または守るようになったと答える生徒【90%以上】</p> <p>②-2 他を思いやる言動ができていると答える生徒【90%以上】</p> <p>③「豊かな心」や「人権尊重の意欲と実践力」に関する生徒の自己評価の向上【自己評価度：70%以上】</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>生きる力がとても身についたと答えた生徒は31.1%、まあまあ身についたと答えた生徒は49.2%で、合わせると80.3(84.1)%であった。()は昨年度</p> <p>①-1 規則正しい生活が以前から送れている生徒は36.6%、規則正しい生活が送れるようになったと答えた生徒は32.7%であった。合わせると69.3(67.0)%であった。</p> <p>①-2 コロナウイルス感染防止対策ができていると答えた生徒は97.4(96.0)%であった。</p> <p>②-1 交通ルールをほぼ遵守している生徒は98.7(97.2)%、服装や頭髪のルールがほぼ守れている生徒は90.1(86.2)%であった。</p> <p>②-2 クラスや部活動、学校外において他を思いやることができていると答えた生徒は52.1(41.1)%、まあまあできていると答えた生徒を含めると93.5(92.3)%であった。</p> <p>③人権問題に関する意識調査の結果、「周りの人を大切にしている」と答えた生徒が91.9%であり、人権に関する意識の向上が態度に現れている。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>① 学校生活が楽しいと答えた生徒は86.2(86.5)%である。生きる力が身についたことが自信につながり、充実した生活が送られているのではないと思われる。規則正しい生活が日々の充実した活動となり、豊かな心・他者への思いやりにつながると思われる。</p> <p>② 交通ルールを守れている生徒が大半であり、警察による違反に対するイエローカードの数は一昨年度40件、昨年度の22件から27件と昨年より5件増加した。交通事故件数は昨年31件であったのが本年度は17件に減少した。集会のたびに毎回注意を喚起した成果かもしれない。</p>	<p>① 「規則正しい生活ができる」と実感している生徒が昨年に続いて設定目標より20ポイント低い状況については、引き続き改善を試みる必要がある。基本的な生活習慣を自ら正せるようになることが基本。自らの生活を見つめ、よりよく生きようとする意識や行動が生徒の自己評価に現れている。</p> <p>② 特に交通安全に関する規範意識について交通事故の件数が昨年に比べて大幅に減少していることは評価できる。また、SNSの不適切使用についても減少傾向にあることは望ましい成果である。</p> <p>③ 人権に関する意識の向上や態度の変化が評価されており、学校がよくなる基盤ができてきていると感じる。</p> <p>「生きる力」を生徒は理解できているのか、この「生きる力」を何でもって評価しようとするのか、生徒指導中心の評価になっていないか、改善する必要があるのではないか。生徒が生き生きと活動する姿こそ評価すべきでは。</p>	<p>遅刻を繰り返す生徒の重点的な指導が必要である。家庭との連携を図り、規則正しい生活を心がけるよう本指導したい。基本的な生活習慣の確立が意欲・学力の向上そしてルールを守ることなどあてはまることを理解させたい。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 あいさつ・礼儀・言葉遣い・遅刻をしないなど社会で大切なことを、あらゆる機会を通じて理解させる。</p> <p>①-2 時間を守ることを、規則正しい生活を送ることが社会に出て大切なことだと理解させ、実践できるよう呼びかける。</p> <p>②-1 法律を守ることが、他者を守り、そして自分を守ることになり、豊かな社会を作り出すことをあらゆる機会を通じて理解させる。また犯罪や交通事故などを防ぐための判断力を身につけるようホームルームや講演会を通じて身につけさせる。</p> <p>②-2 スマホの使用について、善悪の判断ができる力をホームルームや講演会を通じて身につけさせる。また、不適切な書き込みが人権問題に発展することを理解させる。</p> <p>③-1 学校人権の日資料「じんけん耕心」を年10回程度発行し、人権問題やその解決等についての情報を生徒に提供する。</p> <p>③-2 人権講演会を学年ごとに実施する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 全校放送・学年集会やホームルームなどを通じて、あいさつ・礼儀・言葉遣い・遅刻をしないよう呼びかけた。毎朝登校時に教員による立証指導を行った。</p> <p>①-2 遅刻を繰り返す生徒に、その原因と改善方法を指導した。ゆとりを持って登校することが交通事故の防止につながることを指導した。</p> <p>②-1 「交通安全教室」「薬物乱用防止教室」の講演、年度初めにホームルーム活動で「高校生の交通と安全」の冊子を通じて、また全校放送や学年集会を通じて安全運転について啓発した。学校周辺での事故多発場所を地図に記して各教室に掲示し、安全運転を心がけるよう啓発した。</p> <p>②-2 全校放送・学年集会やホームルーム「スマホ・ケータイ安全教室」などを通じて、不適切な SNS への投稿をしないよう啓発した。また SNS による犯罪の危険性を知り、被害者にも加害者にもならないよう指導した。</p> <p>③-1 「じんけん耕心」は1月までに5回発行した。また、人権委員による啓発活動を放送にて3回実施した。</p> <p>③-2 人権講演会を「インターネットによる人権侵害(1学年)」「認知症サポーター養成講座(2学年)」「障がい者トッパ</p>	<p>授業に対する取り組みが熱心な生徒が多くなってきているように思われる。また、時間を守ることにについては、昨年度は感染症のため出席日数が少なかったため遅刻は大きく減少していたが、一昨年度より少しの減少にとどまった。特定の生徒が遅刻を繰り返しているため、家庭との連携が重要である。</p> <p>大きな交通事故は発生しなかったが、17件発生している。事故に遭ったときにほとんどの生徒が警察に連絡を取れるようになったが、できていない生徒が数名いた。危険な箇所での一時停止や徐行を徹底する指導が必要である。</p> <p>SNS による不適切な使用は3件で1件減少している。令和4年4月から成人年齢が18歳となるため、SNS 等による契約について十分な指導が必要である。</p> <p>人権委員会が中心となって新型コロナウイルス感染症に関するポスター作りや、シトラスリボン活動等を行い、全校生徒に呼びかけをすることができた。また、文化祭で手話コーラスを</p>	<p>遅刻は基本的な生活態度の欠落なので、卒業後の生活に影響が出ると思われるので、本人の自覚を促したい。</p> <p>自転車や徒歩での登校中の事故は警察に通報しづらい状況と思われるが、とにかく警察(110番)に連絡するようしっかり教えていく必要がある。</p>	<p>余裕を持って登校することが、安全運転につながるため、雨天時を含めて、家を出る時刻を確認させ、実行できるように指導する。また家庭との連携を図る。</p> <p>自転車の運転時に、危険を予知する力をつけさせる。「かもしれない運転」を心がけるよう指導する。</p>
		<p>③-1 学校人権の日資料「じんけん耕心」を年10回程度発行し、人権問題やその解決等についての情報を生徒に提供する。</p> <p>③-2 人権講演会を学年ごとに実施する。</p>	<p>③-1 「じんけん耕心」は1月までに5回発行した。また、人権委員による啓発活動を放送にて3回実施した。</p> <p>③-2 人権講演会を「インターネットによる人権侵害(1学年)」「認知症サポーター養成講座(2学年)」「障がい者トッパ</p>	<p>人権委員会が中心となって新型コロナウイルス感染症に関するポスター作りや、シトラスリボン活動等を行い、全校生徒に呼びかけをすることができた。また、文化祭で手話コーラスを</p>	<p>種々の人権講演会や新型コロナウイルス感染症に関する人権問題に取り組む活動が実施されていることは評価できる。</p>	<p>次年度は生徒達による人権問題についての話し合いなどを取り入れた活動が出来るようにしたい。</p>

		<p>③-3 人権委員会の呼びかけで、エシカル消費につながる商品の調査を全校生徒に取り組みさせる。</p>	<p>スリートによる講演会（2学年）「デートDV防止セミナー（3年生）」の合計4回実施した。 ③-3 テーマをエシカル消費から新型コロナウイルス感染症に変更をし、人権委員会が中心となって啓発活動を行った。</p>	<p>行い、共生社会の実現に向けて行動しようとする意識付けを図ることができた。 人権講演会は計画通り実施することができた。感想文からも人権に対する生徒の意識の向上が見られる。</p>	
--	--	---	---	--	--

自 己 評 価			学 校 関 係 者 評 価			
重点課題2	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策	
<p>「質の高い学びの育成」</p>	<p>(全体レベル) 主体的な学びの実現を目指す中で、学習意欲を高め、一人一人が輝く多様性を育む教育を推進する。</p> <p>(下位組織レベル) ①ユニバーサルデザインの授業を通して生徒が主体的に学ぶ学習意欲を養成する。 【進学課】</p> <p>②主体的・対話的で深い学びの創造に向けての授業改善に努める。 【進学課】</p> <p>③個々の能力の伸長を図りながら、専門的な知識・技能を身につけさせる。 【進学課】</p>	<p>評価指標 生徒が、理解しやすい、力が身についたと実感できる授業を実践する。 【授業理解度：85%以上】 【授業を通して力が身についたと感じている生徒の割合：80%以上】</p> <p>①・② ICT を活用して、全ての生徒が理解しやすい授業を実践し、生徒の主体的・対話的で深い学びを導くとともに、生徒の ICT 活用・情報収集・情報の効果的活用能力を向上させる。 【ICT を活用した教員研修の実施：年1回以上】 【ICT を活用した授業：各学期1回以上】</p> <p>③ 生徒の興味・関心・進路に合わせた資格・検定の受検を勧め、積極的に指導する。 【資格・検定を受検した生徒の延べ人数1100人(昨年1079人)】</p> <p>活動計画 ①・②-1 生徒の実態に応じた ICT を用いた授業法の工夫や教科間での情報交換を行う。 ①・②-2 教員相互の授業見学または研究授業を年間2回実施し、指導方法の向上を目指す。 ①・②-3 ICT 活用法、リキョウマネジメントに関する教員研修を実施する。 ①・②-4 各教科で、生徒各自が授業の振り返りを文章で記入し、自己実現につなげる。</p> <p>③ 個々の進路に必要な資格・検定に関する情報を提供し、取得を薦める。また、合格に向けた指導を継続的に行う。</p>	<p>評価指標による達成度 授業が分かると感じている生徒の割合81.6% 授業を通して力が身についたと感じている生徒の割合79.1%</p> <p>①・② ICT を活用した授業のための教員研修を実施した。令和2年11月より電子黒板導入、タブレットを利用開始。 【ICT を活用した教員研修 3回 ICT を活用した授業実施 60%】</p> <p>③ 資格・検定を受検した生徒数【資格・検定を受検した生徒の延べ人数1014人】</p> <p>活動計画の実施状況 ①・②-1 各教科内で ICT を活用した授業法の情報交換が頻回に行われている。 ①・②-2 教員相互の授業見学を2回実施し、延べ128人の先生が他教員の授業を見学した。 ①・②-3 電子黒板やタブレット PC などの ICT 機器、MetaMoji Classroom、まなびぼけっと、Classi などのアプリの活用法の教員研修を計3回実施した。 ①・②-4 単元ごと、学期ごとなど、授業の振り返りを文章にして生徒にまとめさせている。</p> <p>③ 資格検定取得の必要性を感じている生徒は多く、受検する生徒が増えている。教科によって、検定対策の補習を実施したり、個別に課題を提供している。</p>	<p>総合評価 (評定) B 生徒による授業満足度は目標を下回った。 (所見) ①・② 生徒の自己評価では、ICT を活用した授業に満足している生徒の割合は60.4%だった。電子黒板の導入によって、映像や写真を容易に確認することができ、授業内容が理解しやすくなったと答えている生徒が38%だった。一方、情報を収集したり、機器を扱う力が身についていると感じている生徒は50%を超えた。インターネットの接続の問題、教員の ICT 活用技術不足の問題があると考えられ、全ての授業で ICT が効率よく活用されているとは言えない。 ③ 資格・検定試験を受検する生徒数は一定数いる。合格率が高いものもあるが、低いものもあり、継続して指導が必要である。</p> <p>①・② 生徒による授業評価で、「授業のテンポがよくなった」「授業の要点が分かりやすい」という声が多く、生徒は ICT の導入に肯定的で、あまり抵抗感なく受け入れていると感じる。しかし、インターネット接続の問題は大きく、スムーズに ICT を活用できる環境が望まれる。また、「生徒の理解度は高まっているか」について、各教科で検証していく必要がある。</p> <p>③ 卒業後の生徒個々の進路に応じた選択ができるのが本校の特徴で、生徒たちも資格取得の必要性を感じ、受検者数も増えている。また、教員側も対策補習や個別課題の提供を心がけ、実践している。</p>	<p>学校関係者の意見 ①② 主体性を持って ICT 活用能力を身につけて学習できる力を養うには、教員側の体制構築が必要となることから、現状ではまだ道半ばといえるかも。しかし、情報収集能力や情報機器の取り扱い能力が身についたと実感する生徒が50%を超えることは評価できる。 家庭学習においてタブレットがあまり活用されていない。休校中などに活用できるようにしてほしい。 生徒の理解度・習熟度を見逃さず、アクティブラーニングなど教育方法の改善に取り組んでほしい。 ③ 資格・検定の受検者数を伸ばすことは必要条件だが、合格者数を伸ばすことが達成されてはじめて実のある教育になる。それに関する指標も盛り込んでほしい。</p> <p>①② 今や ICT を活用した授業実践は不可欠なものであるが、質の高い学びを実現するための授業改善は教師の命題である。個々の生徒の意欲を高めたり、理解度に応じたきめ細かな授業の創造のために努力を継続していただきたい。 ② ICT を活用した遠隔授業では対面授業に比べて授業設計が難しくなることが推察できるがそのための研修などが頻繁に行われていることは評価できる。</p> <p>③ 検定試験などに積極的に申し込み、合格に向けて学校で事前に指導していただけたらと思う。 個々の進路につながるものなので今後も継続していくべき。</p>	<p>①② 生徒が ICT を活用して主体的に学ぶ授業実践を目指す。授業内容の理解を深め、個々の生徒が自分の意見や考えを表現したり、グループで協働学習できるような授業展開を目指して教員の研修を続ける。 各生徒の習熟度に合わせて学び直しをする機会を確保し、基礎学力の定着を図る。 ③ 各種検定や資格取得の合格率を前年度比増を目指す。</p> <p>①② 教員間の ICT 活用能力の差異をなくすため、先進的な授業実践を行っている教員の授業を見学するなど、教員の研修を継続する。生徒の理解度や習熟度に合わせた学び直しの時間を確保し、その際には提供されるアプリ等を活用し、授業中だけでなく、家庭でも学習できるようにする。</p> <p>③ 資格検定試験対策は授業内で実施できないものもあり、放課後補習を効果的に運用して合格率の上昇を目指す。</p>

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題3	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見			
「社会的自立と進路実現」	<p>(全体レベル)</p> <p>主権者としての自覚を促し、各学科の目的に応じたキャリア教育を推進する中で、社会的自立に必要な能力・態度を育成し、生徒の進路実現に努める。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①主権者としての自覚を高めるための主権者教育を推進する。【主権者教育担当者】</p> <p>②社会的自立とともに自己の進路を見出すための未来を切り拓くキャリア教育を推進する。【就職課】 【人権・相談課】</p> <p>③一人一人の教育的ニーズを把握し、生徒の進路実現を支援する。【就職課】</p>	<p>評価指標</p> <p>進路決定率100%を目指す。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>進路決定率 97.5% (1月末現在)</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>求人状況は昨年並みであったが、就職希望者も少なく、ほとんどの生徒が1回の受験で内定となり、進路決定者の満足度も高かった。企業と電話や来校対応によって得られた情報を進路指導に活用することができた。企業への応募前見学は就職先の決定やミスマッチ防止のために有効だと思う。安易な進路選択にならないよう、企業の情報収集をして、自分に合う企業を選んで就職したいという気持ちを高めて、そのために学力を充実させて受験させることが課題である。</p>	<p>① 主権者教育は評価指標に到達しており、着実な取り組みがなされている。</p> <p>② キャリア教育について指標達成に向けて努力がされている。しかし、職業適性検査結果から生徒の評価が予想外に低いことの分析が必要。3年間の学びの成果としての進路決定は大きい。その進路実現に向けた「キャリア教育」は重要である。その「キャリア教育」について評価指標では全体が示されていないように感じる。「キャリア教育」の本質とは何か、次年度に向けて検討していただきたい。</p> <p>③ 生徒各人の進路実現へのサポートについて、生徒の評価は高く、取り組みが結果を出していると評価できる。</p> <p>近年、進学者が就職者より遙かに多い。自分の将来について生徒が早めに決めて担任とコミュニケーションを密にとっているからと思われる。</p>	<p>今後も進路実現に向けて、生徒一人ひとりに応じた進路指導を実施していくことが必要である。自分の希望や適性に合う企業を選び、就職したいという気持ちを高め、必要とされる学力を充実させて受験させることが課題である。</p>	
		<p>①-1 主権者に必要な資質(問題を捉え、考え、判断し、行動する力)を授業で育む指導を実践する。【実践教科：5教科以上】 【教科別の取組実践例：1例以上】</p> <p>①-2 主権者教育を高めるための講座を実施する。【主権者教育の講座実施：年1回以上】</p>	<p>①-1 全12教科で実施することができた。授業だけではなく、ホームルーム活動や学校行事を通して、主権者としての資質を育む取り組みができた。</p> <p>①-2 11月に3年生を対象に「主権者教育を高める教育の充実のための出前講座」を実施し、選挙の意義について理解を深めた。</p>	<p>②-1 職業適性検査の結果が進路決定の時に参考になったと答えた生徒は全体の68.8%であった。</p> <p>②-2 各自が1社以上、企業への応募前見学を行い、自分の希望に合う企業選びや就職への意識付けを行った。</p> <p>②-3 教職員研修の満足度は満足と答えた教職員が全体の97%であった。</p>	<p>「主権者教育指導計画」を作成することによって、各教科で行ってきた取り組みが主権者として必要な資質を育むことにつながっていることを確認することができた。主権者教育の視点で、意識的に授業に取り組むことで効果的に授業ができた。</p>	<p>主権者教育も定着してきた感がある。この4月から成人年齢が18歳になることからさらに意識を高めていってほしい。多くの教科で主権者教育が実践され、「必要な資質」を育まれている。各教科がねらいを定めて実施することは授業改善につながる。特に評価の工夫などについて知りたいところである。</p>	<p>今後も各教科や各学科と連携をとりながら、主権者教育を実践していく。</p>
		<p>②-1 自分の適性を知り、進路ガイダンス等を通して進路について考える。【自己理解度90%以上】</p> <p>②-2 応募前見学を実施する。【1人3社まで】</p> <p>②-3 教職員のスキル向上に向けて研修会を実施する。【満足度90%以上】</p>	<p>②-1 職業適性検査の結果が進路決定の時に参考になったと答えた生徒は全体の68.8%であった。</p> <p>②-2 各自が1社以上、企業への応募前見学を行い、自分の希望に合う企業選びや就職への意識付けを行った。</p> <p>②-3 教職員研修の満足度は満足と答えた教職員が全体の97%であった。</p>	<p>③-1 昨年度の3年担任と今年度の3学年の正・副担任で26社、就職課で18社に電話連絡し、卒業生のアフターケアや求人への依頼を行った。連携活動件数65件</p> <p>③-2 1月末時点で合否未決定の生徒もいるが、進路決定者の満足度は95.6%だった。</p>	<p>コロナ禍の影響で、求人数は昨年並みであったが、就職希望者数も昨年並みで、企業選択に困ることはなかった。ほとんどの企業が応募前見学を快諾してくださり、リモートでの見学や説明会もあり有難かった。</p>	<p>企業側の求める社員に必要なビジネスマナーの指導や、インターンシップや応募前見学、職業適性検査により自分に合った進路を見出すキャリア教育を推進する。</p>	
		<p>③-1 企業やハローワーク等との連携活動を推進する。【連携活動件数：80件以上】</p> <p>③-2 進路実現における生徒の満足度の向上を図る。【満足度：90%以上】</p>	<p>③-1 昨年度就職した企業30社には電話により卒業生のアフターケアを行い、その他14社には電話による情報収集を行った。また、ハローワークと電話による情報交換を随時行った。</p> <p>③-2 1人3社まで応募前見学の希望を募り、自分の目で見て、職場の声を聞いて受験する企業の選択ができるようにした。</p>	<p>③-1 企業やハローワークとは主に電話で情報交換を行った。専門機関と密接に連携し、学校だけで指導することが難しい生徒に対してきめ細かい指導をすることができた。</p>	<p>コロナ禍で応募前見学ができたことはよかった。企業側の協力を得られるよう今後も取り組みを継続していただきたい。</p>	<p>企業やハローワーク、必要に応じては関係諸機関との連携を継続していく。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①-1 学校全体で共通理解を図り、取組を進める。各教科や各学科で、主権者として必要な資質を育む取り組みを実践し、主権者教育に位置づける。</p> <p>①-2 教職員が主権者教育や政治の話題を共有できるような資料を作成する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 主権者に必要な資質について共通理解し、各教科等で検討して年間計画を作成することができた。</p> <p>①-2 衆議院議員総選挙前に、「選挙運動についてのルール」についての資料を作成し、教職員、生徒に伝えた。</p>	<p>②-1 職業適性検査を実施し、自分の適性を知って、進路を考えたと答えた生徒は全体の68.8%であった。</p> <p>②-2 就職希望者延べ53名が37社に応募前見学を行い、その中から自分に合う企業を選んで受験した。</p> <p>②-3 教職員全体には実施しなかったが、必要な場合は個別に対応した。</p>	<p>企業やハローワークとは主に電話で情報交換を行った。専門機関と密接に連携し、学校だけで指導することが難しい生徒に対してきめ細かい指導をすることができた。</p>	<p>企業やハローワーク、必要に応じては関係諸機関との連携を継続していく。</p>	
		<p>②-1 職業適性検査を実施し、自己理解を深めて、進路について考える。</p> <p>②-2 ミスマッチ防止を図るための企業訪問を行う。</p> <p>②-3 特別な支援を必要とする生徒への進路指導についての教職員研修を実施する。</p>	<p>②-1 職業適性検査を実施し、自分の適性を知って、進路を考えたと答えた生徒は全体の68.8%であった。</p> <p>②-2 就職希望者延べ53名が37社に応募前見学を行い、その中から自分に合う企業を選んで受験した。</p> <p>②-3 教職員全体には実施しなかったが、必要な場合は個別に対応した。</p>	<p>③-1 昨年度就職した企業30社には電話により卒業生のアフターケアを行い、その他14社には電話による情報収集を行った。また、ハローワークと電話による情報交換を随時行った。</p> <p>③-2 1人3社まで応募前見学の希望を募り、自分の目で見て、職場の声を聞いて受験する企業の選択ができるようにした。</p>	<p>企業やハローワークとは主に電話で情報交換を行った。専門機関と密接に連携し、学校だけで指導することが難しい生徒に対してきめ細かい指導をすることができた。</p>	<p>企業やハローワーク、必要に応じては関係諸機関との連携を継続していく。</p>	
		<p>③-1 企業との情報交換やハローワークや専門機関との連携を行う。</p> <p>③-2 納得のいく進路決定ができるよう個々に応じた指導をする。</p>	<p>③-1 昨年度就職した企業30社には電話により卒業生のアフターケアを行い、その他14社には電話による情報収集を行った。また、ハローワークと電話による情報交換を随時行った。</p> <p>③-2 1人3社まで応募前見学の希望を募り、自分の目で見て、職場の声を聞いて受験する企業の選択ができるようにした。</p>	<p>企業やハローワークとは主に電話で情報交換を行った。専門機関と密接に連携し、学校だけで指導することが難しい生徒に対してきめ細かい指導をすることができた。</p>	<p>企業やハローワーク、必要に応じては関係諸機関との連携を継続していく。</p>	<p>企業やハローワーク、必要に応じては関係諸機関との連携を継続していく。</p>	

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題4	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見			
「エシカルな視 点に立った行動 の推進」	(全体レベル) 持続可能な社会の実現に向けたエシカルな行動を主体的に考え、多様な教育活動へと展開する。	<u>評価指標</u> 一人一人の生徒が様々な教科や特別活動を通し、エシカルな行動を実践できることを目標とする。 【自己評価実践度：60%以上】	<u>評価指標による達成度</u> コロナ禍により、校外での活動ができなかったが、普段の生活や課題研究、収穫祭を通して、エシカル消費活動を実践した。生徒の実践度は74%(前年度72%)であった。	総合評価 (評定) B (所見) ①-1 素材の特長を活かすことを目標に生徒が、試行錯誤を重ねた。試食会を開き、改良を重ね、主体的な活動と実践することができた。 ①-2 HACCP 認証には至らなかったが、HACCP に沿った製造実習を展開し、食品ロス削減などエシカルな生産を実践できた。 ①-3 認定者数を増加させるとともに、ゴールド認定取得に向け、さらに主体的な活動を実践する。 ①-4 SDGs の取組は一朝一夕にはできず、エシカル消費浸透への地道な取組を継続することが大切で、根底にある共有すべき部分は、一昨年・昨年と引継がれていることを実感できた。	① 「エシカル」を掲げた課題は城西高校ならではのと思う。生徒の実践度が目標以上の74%になっているのも生徒の行動力が育っている証拠。 「エシカル」の実践そのものは十分評価できるものであるが、世界的な共通目標となっている「SDGs」と重なる部分も多し。この視点からさらなるエシカルの深化を目指した取り組みと実践をお願いしたい。 ② 環境 ISO について着実に取り組みを続けているのが評価できる。	全生徒と教職員がエシカルな行動と SDGs を関連付け、生徒の学習や発表を通して情報を発信する。 ①-1 GAP の認定を継続し、エシカルな生産を展開し、商品化につなげていく。 ①-2 HACCP 認証を受け、エシカルな生産を実践する。 ①-3 アグリマイスター認定率を向上させ、ゴールド、プラチナ認定者を増加させる。 ①-4 外部団体が行うプロジェクトへの参加は次年度も継続されるかどうか不明なため、いくつか代替案を事前に持つ必要性がある。	
	(下位組織レベル) ①人・社会・地域がつながる学びの場としての実践的活動を推進する。 【農業科】 【総合学科】 ②一人一人が環境について考え、次代へとつなげるための環境活動を推進する。 【環境課】	①-1 GAP の手法に沿った生産された農作物の中で、規格外物品の活用による商品化を推進する。 【規格外の商品化：2品目以上】 ①-2 徳島県独自の HACCP の認証を受け、HACCP に沿った衛生管理を展開し、エシカルな生産を実践する。 【1品目の認証】 ①-3 さまざまな実践活動に取り組む。 【アグリマイスター取得：5人以上】 ①-4 1年生の総合学科での「産業社会と人間」の取り組みとして、ユニクロとの協業による「届けよう服のチカラ」プロジェクトに参加予定。また、全学年各科目においてエシカルな観点に基づいた授業を取り入れる。 ② 環境 ISO 活動の取り組みを行い、エシカル消費の考えやボランティア精神を学ぶ。 【環境 ISO 活動の実施：年1回以上】	①-1 実習で生産した規格外の生産物を活用し、4品目を商品化することができた。 ①-2 食品科学科で焼き菓子(クッキー)で HACCP 認証を受けられなかった。 ①-3 アグリマイスターの認定を3年生13名が取得し、学校農業クラブ活動や資格取得に積極的に取り組んだ。農業科生徒の15.5%になった。 ①-4 本年度も「届けよう服のチカラ」プロジェクトに参加し、難民キャンプへ子供服を計7箱(113kg)分を届けた。近隣の加茂名南幼稚園との協力のほか、本年度は加茂名南小学校でも取組をはじめた。各教科での授業では難民キャンプの現状を取り入れるなど、社会情勢を伝えた。 ② 本年度「新 学校版環境 ISO に継続申請し新たに認証をされた。教室から出るゴミの分別を全クラスの整美委員により実施。電気使用量の記録を各クラスに掲示、見える化を図った。				①-1 農業科4科と連携を図り、商品開発を行い販売につなげ、「食品ロス削減」とともに儲かる農業を実践する。 ①-2 食品の安全性に影響を及ぼす有害要因(ハザード)を管理し、安全・安心な食品を生産し、学校祭等で販売や情報発信を行う。 ①-3 プロジェクト活動や資格取得、大会参加など、アグリマイスター認定に結びつける。 ①-4 2学期に本校や近隣の幼稚園で収集した子供用衣料をユニクロに送って難民キャンプなどに役立ててもらおう学習を通して、エシカル消費の考えを学ぶ。 ② 生徒会役員や整美委員会を中心にした活動を通して、ゴミの分別や

	その減量化を目指して取り組む。	可燃物、不燃物の分別活動を整美委員を中心を実施。	た。	は重要。ボランティア精神をさらに深めた環境整備に取り組むようにしていただきたい。 環境 ISO について活動主体がどう感じているかを評価に入れてみてはいいかがか。
--	-----------------	--------------------------	----	--

自 己 評 価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策		
重点課題5	重点目標	評価指標と活動計画	評 価	学校関係者の意見			
「命を守る安心・安全な学校づくり」	<p>(全体レベル)</p> <p>心身ともに健康な体づくりとともに災害時での安全確保など生命を守るために主体的に行動できる能力・態度を育成する。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①魅力ある食育の推進とともに、健全な生活習慣を確立し、豊かな心の醸成を図る。 【保健厚生課】 【家庭科】</p> <p>②防災に関する活動を通して、防災意識を高めるとともに、地域の中で主体的に行動するための実践力を育成する。 【危機管理課】</p>	<p>評価指標</p> <p>避難訓練の実施 【年3回以上】 防災訓練の実施 防災クラブの活性化を推進する。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>避難訓練を4・6・11月の3回実施 11月に地域と連携した防災訓練を実施</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p> <p>(所見)</p> <p>①-1 今後は、「食育だより」と「保健だより」の双方を活用し、食育への連携を深めていきたい。</p> <p>①-2 二次検診の受診率は昨年度より向上したものの11%と目標値には届かなかった。</p> <p>②-1 防災に関する意識調査が中止になったが、行事計画等を見直していきたい。</p> <p>②-2 生徒・職員等が積極的、また意識を高く持ち開催できた。本校が災害時には、避難所として運営する事が周知できた。</p> <p>②-3 マップで危険箇所を確認でき、災害時に我が身を守る行動に役立つと思われる。</p>	<p>①-1 生徒の心身の健康を守ることは重要なこと。今後とも関係機関と連携して、校内でも共通理解しながら実践して行っていただきたい。</p> <p>①-2 歯科検診の二次検診が11%は低いのではないかと、さらなる向上を期待する。</p> <p>② 防災・減災への意識を高める活動が実践されている。南海トラフを震源とする大地震は今にも起こるかもしれないといった意識を持って訓練を継続していただきたい。また、地域と連携して取り組むよう希望する。</p>	<p>①-2 保健所等の専門機関と連携し、歯科保健教育を継続して行う。</p> <p>② 「校内避難訓練」「各種研修や訓練の実施」「防災クラブの活性化」を3本柱として防災意識の向上と実践力の習得を目標に活動していきたい。</p>	
		<p>①-1 朝食摂取啓発のために食育だよりを発行する。 【年2回以上】 【知識定着率：80%以上】</p> <p>①-2 歯科検診の二次受診率を向上させる。 【二次受診率：20%以上】</p>	<p>①-1 「食育だより」発行の代替として、「保健だより」で朝食摂取の重要性を啓発するとともに、保健および家庭の授業をとおして食と健康の関連性を伝えた。</p> <p>①-2 徳島保健所と連携した歯科保健健康教育を1年生を対象に実施した。「健口ノート」を用いて、自分の歯の状態を予想し、健診後に自己評価した。</p>	<p>①-1 防災に関する意識調査が中止になった。</p> <p>②-2 地域と連携した防災避難訓練を実施。 【参加者：生徒30名 職員10名 地域住民10名 防災関係機関4名 計 54名の参加】</p> <p>②-3 年度当初に加茂地区危険箇所マップを全校生徒に配布した。</p>	<p>①-1 保健と食育の両方から朝食摂取の重要性を啓発している。「朝食摂取率」を評価指標に入れてもいいのでは。</p> <p>①-2 次年度も引き続きアンケートを実施し、縦断的な成果を確認したい。</p> <p>①-3 「保健だより」や夏季休業前等の全校集会を利用し、受診の必要性を啓発することができた。</p>		<p>①-3 受診率の向上のために、う歯がみられる者には個別指導を行ったり、啓発活動の回数を増やしたりする必要がある。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①-1 衛生面への指導・注意喚起を含め、朝食摂取の重要性を生徒厚生委員会を通して働きかけ、その成果と課題をを学校保健委員会で検討する。</p> <p>①-2 「食育だより」の充実を図り、確認アンケートを実施する。</p> <p>①-3 歯の健康が健康増進につながることを「保健だより」等で周知し、受診率向上をめざす。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 衛生面への指導・注意喚起を含め、朝食摂取の重要性を生徒厚生委員会を通して働きかけ、その成果と課題をを学校保健委員会で検討した。</p> <p>①-2 食と健康に関する意識向上の確認アンケートを実施した。</p> <p>①-3 歯科検診の結果、う歯や歯肉炎がみられる者には通知し受診を勧告した。また、「保健だより」や全校集会等を利用し、受診を促すための啓発を行った。</p>	<p>②-1 防災避難訓練は実施し防災に関する意識向上は図れたが、コロナ禍のため心肺蘇生法講習会は、開催できなかった。</p> <p>②-2 防災クラブを中心に、地域と連携した防災避難訓練（参集・誘導・受付・間仕切り・その他）を実施した。</p>	<p>②-1 消防署・保健所等関係諸機関と相談し、防護服等を使用して心肺蘇生法研修会を実施できたよかったです。</p> <p>②-2 避難所運営を理解するため段ボールを使ったパーティション・ベッド・トイレ作り</p>		<p>② 全ての学年生徒に各種訓練を実施することは有効であり次年度も計画したい。 地域と連携した防災避難訓練を今後とも継続していき</p>

		<p>②-3 加茂名地区の避難支援マップを活用し、危険箇所等を確認する。</p>	<p>②-3 加茂名地区の避難支援マップを活用し、危険箇所等を確認するように指導した。</p>	<p>を体験することができた。 ②-3 通学・下校時の危機対応力の育成に役立てた。</p>	<p>対応（危機管理）は、この項目に入るべき。備え、対策、生徒理解などその方策を考え、しっかり評価すべきだと思うが（重点課題1にも入ると思うが）。 校内の危険箇所は点検できているのか。</p>
--	--	--	---	---	--